

知床の窓から見えるもの

2015年3月3日（火曜日）

「道外へ」

～出雲の国へ行って参りました～

ご報告が遅れましたが、1月に島根県松江市に行って参りました。

出張の目的は「看護師の広域連携」の協定を結ぶためです。新聞にも掲載されご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、今年の春から秋にかけて、出雲の国（島根県松江市立病院）から羅臼の診療所に看護師さんが短期で研修に来て頂けることになりました。

きっかけは、東京の研修会会場でたまたま隣の席に座られていた方が、松江市立病院の看護局長さんだったという偶然からです。看護師募集をしている私たちの診療所と職員を様々な地域を知るために研修に出したいという松江市立病院さんとのお互いのニーズが一致したというわけです。今、流行りの言葉だとwin-winの関係とでもいいでしょうか・・・。

せつかく、遥々来ていただけるのですから、看護師としてへき地医療の体験をしながら、北海道道東の魅力を堪能してほしいと思います。今年、北海道羅臼町と島根県松江市との縁を結ぶ看護師さん達をどうぞよろしく願いいたします。



～野の花診療所へ足を運ばせて頂きました～

野の花診療所は、鳥取県にあるホスピス診療所です。

この診療所の院長である徳永進先生の書かれた本を始めて読んでから、20年程経ちますが、いつかは訪問してみたいと思いつけておりました。島根県から列車で1時間半ほどのところですが、思い切ってメールとお電話をさせて頂き訪問できることになったのです。

診療所は、本で読んだイメージそのもので、徳永先生の思いのつまったホスピスでした。お忙しいところ、診療の合間をぬって現在のホスピスの現状などをお話していただき、大変感激しました。ありがとうございました。（夢は持ち続けるものですね♡）

診療所の中で、印象深かったのが“ポスト”です。診療所の廊下に置かれており、これは、入院中の患者さんがご家族に宛てた手紙や、未来の自分に宛てた手紙など様々な宛先があるそうです。診療所のスタッフが郵便局に届けて配達になるとのこと。患者さんの気持ちを未来へ繋げるお手伝いを“手紙”という日常的なもので普通にさりげなくおこなっている先生の心配りを感じました。



宛先は未来の自分・・・